

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和5年度	会計コード	10	一般会計	事業コード	24621
事業名	発達障がい者支援体制整備費					
評価担当課	所 属	保)障がい保健 障がい福祉課			電話番号	011-211-2936
施策名	支援や配慮が必要となる子どもや家庭が、困難な状況に応じた適切					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外					
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費			○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費		
	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ○ その他					

事業内容	事業の背景（現在の状況、社会的課題）	平成17年4月発達障害者支援法施行により、国及び地方公共団体の発達障がい者（児）及び家族への支援の責務が明示された。本市は平成17年度より当事業を開始。国は引き続き支援強化を目指しており、本市も取り組む必要がある。発達障害者支援センターへの直接の個別相談が多く、機関支援が困難になっていることが全国的な課題とされているが、本市では平成29年度からおがるに地域支援マネジャーを配置し、令和2年度からは2名、令和6年度からは3名に増員。困難ケースを支援している関係機関のバックアップ（機関支援）が行える体制を整えた。しかし相談数が急増しており、対応するのが困難な状況。また、現状以上の相談が入っても対応が難しいことから、潜在的なニーズは多数あることが予想されるものの、十分な周知ができないことも課題である。
	事業内容（何を実施し）	①発達障がい者支援地域協議会の開催⇒（令和5年度）2回開催 ②啓発用冊子・支援ツールの作成・配布 市民に対し発達障がいへの理解を深めてもらうと共に、ライフステージを通じた一貫した支援を目指す。 ③発達障がい啓発イベントの開催・参加 啓発イベントでのパネル展や作品展示などを通じ、市民への発達障がいの理解促進・普及啓発をはかる。 ⇒（令和5年度来場者）自閉症啓発デーイベント300人、カラフルブレイン札幌900人 ④【委託事業】発達障害者支援センター地域支援機能強化事業：発達障害者地域支援マネジャーの配置 困難事例を支援する施設や事業所等の機関支援を実施。 ⇒（令和5年度相談数）941名 ⑤【業務委託】家族支援体制整備事業 発達障がいのある子を育てる親が相談できる人材（ペアレントメンター）の育成 ⇒（令和5年度メンター相談対応数）55名 ⑥【業務委託】発達障がい支援モデル事業 対応が難しい発達障がいのある方への支援手法の開発 ⇒地域における強度行動障害者支援のための支援体制構築をテーマとした取組を実施。 （令和5年度研修参加人数）190名
	どのような状態にしたい（状態を維持したい）	発達障がい者の各ライフステージに対応する一貫した支援体制の整備を図る。
	他都市の状況	他政令市でも実施
	市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外

令和4年度決算額	15,113 千円	うち特定財源	8,574 千円	正規職員業務量	0.9 人工
令和5年度予算額	16,000 千円	うち特定財源	8,442 千円	正規職員業務量	0 人工
令和5年度決算額	15,104 千円	うち特定財源	8,344 千円	正規職員業務量	0 人工
令和6年度予算額	23,000 千円	うち特定財源	12,080 千円	正規職員業務量	0 人工

指標	アウトプット 活動指標1	普及啓発イベントの参加人数				という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		1477	1400	1200	1400	1400	1400
	↓						
	アウトカム 成果指標1	家族支援・機関支援を通じての世帯への直接的支援				という状態にしたい、成果を挙げたい	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		816	600	1186	1500	1500	1500
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方	イベント来場者数は目標未達成だが、例年と大きく差はない。家族支援・機関支援受けた人数は目標達成できており、引き続き支援体制整備を図っていく。					
	アウトプット 活動指標2					という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	↓						
	アウトカム 成果指標2					という状態にしたい、成果を挙げたい	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	指標2の評価、未達理由、今後の考え方						

今年度の見直し内容	オンラインも活用し、関係機関の情報共有につとめている。
来年度以降の方向性	③啓発イベント「カラフルブレイン札幌」を単独開催ではなく、他イベントとの共催を検討。新たな層の集客をはかる。